

---

# 漫食少年?

源雪風

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

浸食少年？

### 【Nコード】

N4410K

### 【作者名】

源雪風

### 【あらすじ】

不思議なあいつと、俺が仲良くなる。

あいつはいつも校庭の木の下にいた。

俺は同じ木の反対側に座って本を読んでいる。

俺は暑がりだから冬でもここで本を読む。

気が付いたらあいつが隣にいた。

「君、寒いだろ。僕が温めてあげるよ。」

俺は固まってしまった。

どうすべきか。

するとあいつは首に巻いていた紅いマフラーを、俺の首にくるくる巻いて、軽く絞めた。

「僕のマフラーが暖めてあげる。」

「何でお前はそうややこしい言い回しばっかりするんだよ。」

あいつは慈愛に満ちた笑顔で言った。

「刺激が無いと退屈だろ。動物は刺激の無い生活をしていると自殺するんだよ。アメーバみたいな下等な生物でもね。君は自殺した僕の友達にそっくりなんだ。だから温めてあげるよ。」

俺はそれから木の下に行かなくなった。

翌日。

マフラーを返し忘れているのに気が付いた。

仕方ないから、あいつに返しに行った。

「いいよ。そのマフラーは君に巻かれてる方が幸せそうだ。」

「借りたものを返すのは当然だろ。受け取ってもらわないと困る。」

「僕も受け取ってもらわないと困る。」

こいつ、俺をからかっているのか。

「俺は自殺なんかしない。困るんだよ。」

「分かったよ。君がそう言うのなら。」

あいつはマフラーを、俺の手からそつと取った。

細くて今にも折れそうな美しい手だ。

「仲直りの意味も込めて、一緒に帰らないか。」

「喧嘩した覚えもないが。まあいいか。それくらい素直に言えばいいだろ。」

「友達に死なれてから怖いんだよ。素直になるのが……。」

あいつは無理に明るく言った。

手がぶるぶる振えていた。

何か言つてやらないとこいつの心は折れてしまう。

「俺は自殺なんかしないから、俺には素直になつて大丈夫だ。」

俺はあいつがかわいそうに思えた。

でも俺は支えてやれるだろうか。

あいつは笑顔を崩して泣きだした。

「泣いて嫌な気持ちを全部出しちまえよ。泣くなどは言わないから。」

ああ、教室に二人しかいなくてよかった。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4410k/>

---

浸食少年？

2011年1月19日22時03分発行